

ミネソタ通信

第7号

2004年6月30日 日本ミネソタ会発行

目次

「御報告」	会長 佐野東隆	1
「ミネソタ便り」	瀧川一憲・安田さおり	2
「ミネソタと私」	岩波はるみ	4
「ミネアポリス 2003年秋」	藤井堅三	6
「お知らせ・編集後記」	山口健一	8
参考資料-1		9
参考資料-2		11
参考資料-3		12

「御報告」

会長 佐野東隆

会員の皆様各位に日頃ご支援ご協力いただいておりますこと感謝申し上げます。第6号(2002年3月15日発行)以後の活動について御報告申し上げます。

2003年1月30日の役員会において、総会と懇親会開催の準備について打ち合わせを行いました。そして2003年7月5日に東海大学校友会館で開催致しました。36名の皆様にご参加下さいました。懸案だった名簿は村松役員のご尽力で出席者に配布されました。また会費納入の方々には後日郵送する旨の説明がありました。ホームページの紹介、会計報告承認の後、講演会に移りました。

今回はミネソタ州政府貿易局駐日代表事務所の代表、高瀬拓士様のご好意により、「第二の故郷ミネソタ(ミネソタでの学びから生まれた新しい経営)」と題してご講演頂きました。ビジネス



スの体験に基づいた貴重なお話でした。

出席者全員によるデジタルカメラによる写真撮影の後、山下宏様の乾杯の音頭で懇親会に入りました。霞が関ビルからの都内の景色を楽しんで頂きながら会員相互の親睦を深めました。安田さおり様からミネソタアップトゥーデートについて、北武雄様から留学関係NPO立ち上げについて、伊藤定祐副会長からパワーポイントによるス

ライド紹介がありました。Hamaty David 氏による日本語のスピーチ、兼光秀郎様、快活な岩波はるみ様のスピーチ、や西村史郎様の健康の薦めに関するプリント配布もございました。今井正様、大島秀夫様によるミネソタ大学応援歌のご披露等があつて大いに盛り上がり、成功裏に15:10お開きとなりました。

2004年3月12日、役員会を開催しミネソタ通信第7号(本号)の発行準備について打ち合わせを行いました。

その後、ミネソタ大学の International Alumni Coordinator の Susan Atwood さんと e-mail で交信する機会がありました。その中で会員の田島重雄博士が、2004年の「Distinguished Leadership Award for Internationals」というミネソタ大学賞の受賞者5人の内の1人に選ばれたとの朗報がもたらされました。会としても大変光栄なことと存じ皆様にお知らせ致します。なお、詳しくはミネソタ大学の OIP (Office of International Programs) のウェブサイト (<http://www.international.umn.edu/>) を御覧ください。

ところで、本年は当日本ミネソタ会の第1回総会(昭和59年7月22日)が行われてから約20年目に当たります。節目の年でもありますので、総会及び主な会合、ミネソタ通信、ご奉仕下さった役員等について、参考資料1、2、3の如く整理してみました。会の議事録、ミネソタ通信の記述他から、まとめてみましたのでご一読下されれば幸いです。

「ミネソタ便り」

瀧川一憲・安田さおり

ミネソタ州には、野球、バスケットボール(男女)、アイスホッケーとフットボールのプロ・チームの本拠地がありますが、土地柄を反映しているのでしょうか、これらのプロ・スポーツの中でも特にアイスホッケーの人气が高く、プロ、アマチュアを問わず広く州民に親しまれているのは皆様もご存知のとおりです。

日本では、アイスホッケーは野球やサッカーに比べるとまだ馴染みが薄い感がありますが、アイスホッケーの本場ミネソタで、現在、地元のアメリカ人選手に混じって活躍している日本の中学生が3人もいます。セントポール市内にある私立中学校 International Academy of Minnesota (IAM) に、小さな胸を大きな夢で膨らませて、はるばる海を越えて日本からやってきた3人の中学1年生が、元気に学生生活を送りながらアイスホッケーに打ち込んでいます。昼間はもちろん英語で授業をしっかり受けて、放課後は宿題をこなしながらアイスホッケーの練習とゲームという多忙なスケジュールを笑顔でこなしています。3人は、2003年9月にIAMに入学すると同時に地元チームに加わり練習を開始。その後、トライアウトと呼ばれるオーディションでプレーヤーとして認められた優秀な選手達です。

昨年3～4月に州都セントポールで開催された年令別の国際親善ホッケー大会に参加し、その時の楽しかった日々がホッケー留学に結びついたそうです。ミネソタに来るまで日常会話が英語だということも気にしていなかった現代っ子達ですが、各々のホームステイ先では暖かく家族の一員として迎えられ、居心地も良く、毎日が楽しくて仕方がない様子です。まだ親離れが難しい（親が子離れできない？）年令ではないかと心配する向きもあるようですが、彼等は元気いっぱい、ホームシックも関係なく異国での生活を心底エンジョイしているようです。将来の夢は、もちろんNHLの選手になること。その為にもっと英語を勉強して上の学校に進学したいそうです。最近、アメリカの女の子の方が可愛らしい・・・と感じるようになったとか。

彼らがこれだけ元気いっぱいに頑張れるのは、本人のホッケーに対する情熱や日本のご両親やご家族のサポートはもちろんですが、家族の一員として受け入れてくれているホスト・ファミリーや学校、ホッケー・チームなど関係者の方々の暖かい、親身なお世話があるからではないでしょうか。

（ミネソタ州政府観光局 駐日名誉代表・瀧川 一憲）



《写真： 左から、林崎年亜（りんざきとしつぐ）君、長田大輝（ながただいき）君、丹羽将太（にわしょうた）君 = 写真提供： I AM・入学事務局局長 Alex Thomas さん》

柔軟な心を持った日本のティーンエイジャーたちは、間違いなくミネソタ人の日本観に新たな一面を加えていくはず。また彼ら自身もやがてはミネソタと日本を繋ぐ財産となっていくのだと思うとわくわくと胸が高鳴る思いです。

本文中で紹介されている I AM (www.academymn.com) は、州の正規の中学校として認定を受けており、卒業後は現地の学生同様に高校・大学とそれぞれの進路へ進みます。日本人コーディネーターも在籍しており、今後益々多くの若いパワーがミネソタへ飛び出して行くのではないかと楽しみにしています。

さて、ミネソタは長い冬が終わり、街中が生き生きと躍動する季節になりました。ミネソタへの「里帰り」をお考えの皆様は、ぜひミネソタ州観光局のウェブサイトをチェックしてからお出

かけください。イベントなどの最新情報を掲載しています。また無料のメールマガジンも毎月配信しておりますので、下記ウェブサイトからご登録ください。ミネソタ州政府・日本チーム一同、中学生3名に負けじとミネソター日本の関係発展に努めていきます。今後ともご支援ください。

ミネソタ州政府観光局・駐日名誉代表 瀧川一憲

ミネソタ州政府貿易局・駐日代表 高瀬拓士

アドバイザー 山下 宏

エグゼクティブ・ディレクター 安田さおり

yasuda@nck-tky. co. jp

www.minnesota.gr.jp

(メールマガジンの登録もこちらでどうぞ。)

「ミネソタと私」

岩波はるみ

1980年夏から82年夏まで、私はミネソタ大学産業関係研究所の修士課程の学生として、ミネアポリスで2年間過ごしました。22歳から24歳までの私の「青春」が一杯つまった第2の故郷ミネソタでの思い出話を、「ミネソタ通信」に載せていただけるのはとても嬉しいことです。

1. 私がミネソタ大学を選んだ理由（住みたい町だったから！）
まずは、なぜミネソタで勉強することになったのかをお話します。次のような経緯がありました。



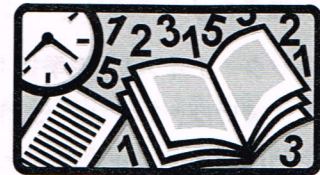
1979年当時、私は立教大学社会学部産業関係学科の4年生として次の進路を悩んでいました。「何か仕事をしたい」私にとって、当時の「女子大生就職の狭き門」は大変な壁であり、きわめて短絡的に「父の経営する婦人ベルト問屋で働こう」という結論に達しました。でもその前に人生ただ一度でよいから外国暮らしをしてみたい！ そうだ、立教大学の学内推薦留学試験に合格して奨学金を得ることができればと挑戦し、見事にシカゴ大学1名の枠に入りました（なんでも私の英語の成績は決してトップではなかったそうですが、面接で大逆転したそうです）。ところが行く手にひとつ大障害が立ちはだかりました。というのも、シカゴ大学への奨学金付一年間留学の条件は立大生であること。すでに4年生の私は翌3月には自動的に卒業してしまい、立大生の資格を失ってしまう！「立大大学院に入学なさるのが条件です」という学校側の説明に愕然としている私に救いの手を差し伸べてくれたのは、私の恩師、ゼミの指導教授である立教大学武澤信一先生（当時は立大社会学部長）でした。「岩波さん、（大学院を受けるのなら日本ではなく）ミネソタ大学の産業関係研究所の修士コースに応募してみたらどうですか。推薦状を書いてあげましょう。」

実は、1年前の1978年の夏休みに私はアメリカ旅行に出かけていたのですが、偶然にもシカゴとミネアポリスの両都市にも遊びに行き（ミネアポリスには当時デイトン百貨店で研修を受けて

いる知人がいたので立ち寄りました)、シカゴ=大都会、女一人歩きの怖い町に対し、ミネアポリス=湖と緑の多い美しい町と印象深く、NY よりもサンフランシスコよりもどこよりも私が一番気に入ったアメリカの都市でした。「ミネソタ大学に行きたい(ミネアポリスに住んでみたい!)」武澤先生の素晴らしい助言から、私は大学院受験の勉強はそっこのけ、ミネアポリスで買ってきた絵葉書(偶然ミネソタ大学の全景が写っているものが含まれていました)をうっとり眺めながら、心は早やミネソタに飛んで毎日を過ごしました。そして幸いなことに、1980年2月ミネソタ大学産業研究所から入学許可の手紙を頂き、立大大学院入試は願書のみで受験をせずに、同年夏、いよいよあこがれのミネソタへと向かったのです。

2. ミネソタ大学での学生生活(私が Ms. Student になった日)

さて、ミネソタ大学で私はどのような学生であったのか。当時の日記を読み返すと楽しい思い出ばかりがよみがえってきますが、その中から1つのエピソードをご紹介します。1982年2月18日付の日記の引用です。



「今日は嬉しいことがあった。尊敬するマホニー先生のクラスでQCサークルの話題になった時に次のような発言をした。『QCサークルの利点は、小集団活動によって短期目標がはっきりと定まり、それに向かって参加者が効果的に仕事ができることである。その結果、経営陣からみても合理的な運営が可能となり、いくつかの日本企業ではこの利点を効果的に生かして生産性向上に結び付けている云々』。当たり前前の発言のつもりだったが、授業が終わってからマホニー先生からもクラスの友人たちからもとても誉められた。『今日の授業の Ms. Student は Harumi だ!』といわれた。これまで英語力の壁があって思うように発言できなかったから、きっと大人しい学生と思われていたのかもしれない。思えば私の中に、英語で自分の意見を上手く言えない鬱憤がずっとたまっていたのだ。」

クラスの中で存在感を示せてよほど嬉しかったのでしょ。語学の壁から思うような発言ができないことに焦燥感を抱き、誉められれば単純に喜んでる20数年前の自分をいとおしく感じます。当時は日本の高い経済成長率を背景に、「日本的経営」にもアメリカの関心が向いていた時期でもありました。

その後英語での初めてのプレゼンテーションもクラスメートから fascinating! と誉められて成功!(と日記には書いてあります)、プランBの論文2つも Proof-reading で英文を一杯直されながらも無事提出、予定通り2年間で修士号(MA-IR)を取得することができ、帰国後9月から父の会社で働き始めました。ミネソタ大学から頂いた卒業証書はもちろん今でも大事に戸棚に飾ってあります。

3. ミネソタで学んだこと(社会の多様性)

私がミネソタで学んだこと、得た財産は何でしょうか。たくさんありすぎて数え切れませんが、その中の1つに「社



会の多様性 Variety」を知ったことがあげられます。同じ人種、宗教の人が多い同質化社会の日本に比べて、ミネアポリスで出会った人々のなんと多様であったことか。世の中には様々な生き方、考え方、モノの見方があり、違う人種、宗教、文化をもちながらも1つの共同社会を形成することの大切さ、尊さを知りました。

後年、父の死去後引き継いだ会社を10年目にして廃業の決意をしたとき、「Variety」という言葉が脳裏をかすめました。「人生には様々なメニューがあり、いろいろな経営者の判断があるはず」。そして自社のビジネスのおかれている状況を客観的に俯瞰できる目を養うことができたのは、ミネソタの2年間のお陰だと思っております。現在は、新たにエグゼクティブサーチの仕事に携わりはじめておりますが、ミネソタ時代の経験が貴重な支えとなっております。私のミネソタでの日々は、毎日が「学ぶこと」ばかりの、我が人生において極めて凝縮された時間でした。

ミネソタ ナイス！ 四季折々の自然に恵まれ、人情厚いミネソタは、素晴らしいところです。来年の夏には、ミネソタ大学においてゴールデンホームカミングが盛大に催される予定とか。ぜひその機会に大好きなミネソタを再訪したいと今から楽しみにしております。

「ミネアポリス 2003年秋」 藤井堅三



「いやあ、きれいな街並みだなあ」

2年ぶりに立ち寄ったミネアポリスで、空港から市外に向かう道で、ゆったりと家を構えるミネソタ・ライフを改めて思い出した。歩ける範囲で欲しいものがそろそろ東京ライフも悪くはないが、庭先にリスが出没する暮らしもいいものだ。

ダウンタウンに入ると、路面電車(Light rail)¹の駅ができあがっていた。ミネソタ雪の中をバス通学していた私にとっては、札幌の地下鉄は夢のように思えたが、ミネアポリスもようやく車以外の交通手段に目覚めてくれたようだ。

Nicollet Mall²を歩くと、懐かしい店が並ぶが、Public Library は、再建中。Dayton は、Marshall Fields に名前を変え、ブロック先にTarget が、オープンしていた。これなら車の無い人でもすぐにターゲットに気軽に立ち寄れる。

ミネソタ大学に戻る。在学中は、寒さをヒタスラ恨んでばかりいたが、久々に戻ると恵まれた学習環境に改めて感心する。ふさふさの芝の上で寝転がると、懐かしい思い出が浮かんでくる。人々が集まり始めたかと思うと、マーチングバンドの行進が始まった。今日は、土曜日。

¹ 2004年12月開通予定。

² http://www.phototour.minneapolis.mn.us/nicollet_mall.html

フットボールの日なのだった。まだあどけなさの残る学生たちが、制服にみをつつみ、誇らしげに行進していく。

Dinkytown³まで歩く。TCFのATMを久々に触ってみる。日本のATMはやはり器用すぎだ。封筒にお金を入れて預金するのが王道なのだ。ショップに入って、ミネソタグッズを物色。アイスホッケーチームの優勝記念Tシャツを買って悦に入る。

そのまま、メトロドームでGophersを応援しようとしたが、係員に入場拒否される。バック・パックは持ち込み禁止なのだそうだ。空港のセキュリティ・チェックも尋常でなかったが、太平洋の彼方からやってきた観光客に、そんな事情はわかるよしもない。テロにとまどうアメリカが透けて見える。

バックをホテルに置いてドーム戻ると、試合は半分終わっていたが、矢継ぎ早に繰り上げられるショーと、電光掲示板に繰り返される広告に、お祭りオリエンテッドなアメリカを思い出した。

ホテルに戻って、テレビをつけると、ツインズのニュース。最後に聞いたのは売却話だったが、リーグ優勝カウントダウンで大盛り上がり。強いときには、全員ファンと化すMinnesotanに苦笑。

翌朝、Minneapolis College of Art and Design⁴で、日本語学校を見学。その日は、高校生が詩の朗読をしてくれた。普段忘れていた日本語の奥行きに接する。ボランティアで「寺子屋」を運営する姿に、教育の原点を見た気がした。

隣のThe Minneapolis Institute of Arts⁵へ。入場無料に感激。京都の拝観料は何なんだろうか。建物の美しさに、民度の高さを感じる。きけば、建築家の丹下健三氏も一役買ったとか⁶。館内の大きな窓の外には、ミネアポリスの高層ビル群が誇らしげにそびえ立つ。日本美術のコレクションも充実しており、ビックリ⁷。まさか、館内に「書院」や「茶室」があるとは思わなかった。

大学時代の友達とランチ。移動で疲れている私を車で案内してくれるのはありがたい。ミネソタの温かみを感じる。スポーツパーに行くのと、今度はVikingsの試合で盛り上がっている。ミネソタの週末はフットボールしかないのだった。

体重が倍になりそうなほど食べた後、Best Buyの新社に到着。空港よりも大きいんじゃないかという駐車場に車を止めて、社内に入る。館内は、完全冷暖房のテーマパークのような世界。保育所、オシャレな食堂、ジムなど、イタレリツクセリ。田舎暮らしのよさを保ちながら、世界と競争できる企業を持つのが、ミネソタの強みですね。久々に訪れたミネソタだったが、私の知らない世界が、まだまだありそうな気がした。

³ <http://www.phototour.minneapolis.mn.us/dinkytown.html>

⁴ <http://www.mcad.edu/>

⁵ <http://www.artsmia.org/>

⁶ <http://www.ktaweb.com/works/minneapolis.html>

⁷ <http://www.artsmia.org/arts-of-asia/japan/>

「お知らせ・編集後記」

山口 健一

- ミネソタ通信第7号ができました。ご寄稿頂いた方たいへんありがとうございました。
- NBAのファイナルが先日終わりましたが、今年のティンバーウルブズはセミファイナルで惜しくもレイカーズに破れましたが、創設以来一番の成績でした。来年も頑張ってもらいたいです。そういえばレイカーズもそもそもミネソタのチームでしたね。
- 会長の「ご報告」にも少し触れられていましたが、ミネソタ大学の the Office of International Programs (OIP) では、海外にいるミネソタ大学の卒業生向けの活動を充実させていこうとしています。その一環として、卒業生に電子メールで OIP の活動を紹介したいので、当会に会員のメールアドレスを教えてくださいの依頼がありました。皆さんのメールアドレスを勝手に第三者へ教えることはできませんので、希望者を取りまとめて先方に伝えることとします。OIP からの情報を希望する方は、氏名と卒業年/学部を明記の上電子メールでお申し込み下さい。宛先は nihonmn2002@yahoo.co.jp です。
- ミネソタ会の年会費 (¥1,000) の納入をお願いいたします。振り込み先は、郵便貯金口座 日本ミネソタ会 00170-9-703979 です。
- 会の活動の新しい展開や新しい会員のご紹介など皆さんの積極的な参加をお願いします。ホームページの内容についてのご提案も大歓迎です。メールアドレスは nihonmn2002@yahoo.co.jp、ホームページアドレスは <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Apricot/4375/index.html> です。

参考資料-1

参考資料-1		日本ミネソタ会総会及び主な会合		
			(注1) 議事録、ミネソタ通信の記録による	
			(注2) 敬称略	
総会回数等	年・月・日(曜日)	場所	タイトル 講演者 当時の身分	備考
第1回	59・7・22(日)	南青山会館		発起人(武市英雄、 中村正吉、沖田哲也、 伊藤定祐、森忠利、 西田司、遠山絢司)
				中村正吉、初代会長 に就任
	Dr.&Mrs.F.G.Mooreを囲む会 59・11・29(木)	明治大学		
第2回	61・1・18(土)	明治大学 大学会館	「アメリカ文明のなかのインディアン達」 祖父江孝男 (放送大学教授)	高藤昇を2代会長 に選任
	Dr.&Mrs.Mestenhauserを囲む会、20名 61・3・15(土)	駒場エミナース		
	Minnesota International Centerからの来客、23名参加 61・10・20(月)	都ホテル東京		
第3回	62・5・16(土)	南青山会館	「ミネソタの文化」 バイロン・マーシャル (ミネソタ大教授)	
第4回	63・11・3(木)	国学院大 院友会館	「最近のミネソタ」 メステンハウザー (ミネソタ大留学生事務所長)	
第5回	2・4・22(日)	国学院大 院友会館	「ミネソタ州日本事務所を開いて」 山下宏 (ミネソタ州政府貿易局 東京代表部、駐日代表)	
第6回	3・4・21(日)	明治大学 大学会館	「日本とアメリカの経営組織論」 梅津祐良 (モービル石油人事部)	沖田哲也会長
	Minnesota州カールソン知事レセプション、7名参加 4・1・16(月)	東京アメリカンクラブ		

第7回	4・4・19(日)	明治大学	「日本経済の今後のゆくて」 速水佑二郎 (青山学院大教授)	
第8回	5・4・18(日)	明治大学 大学会館	「アメリカの都市問題について」 沖田哲也 (明治大教授)	梅津祐良、会長に 就任
			「ミネソタ大学の現状について」 クリス・マコスコ (ミネソタ大教授)	
第9回	6・11・20(日)	国学院大 院友会館	「現代社会におけるDeath Educationの役割」 若林一美 (ジャーナリスト、立教大講師)	
ミネソタ大ハセルモ総長他10名の来日に伴う モンデール大使レセプション、450名出席		7・10・	虎ノ門大使公邸	梅津会長、会を代表してミネ ソタ大学アルミナイアソシエー ションとミネソタ大学評議員会 から表彰される
第10回	8・6・30(日)	国学院大 院友会館	「増えている日本人のガン」 石田常博 (国立高崎病院外科)	
第11回	10・5・24(日)	国学院大 院友会館	「ミネソタの広域行政」 牧田義輝 (東海大教授)	佐野東隆、会長に 就任
第12回	11・6・19(土)	国学院大 院友会館	「リスクマネジメントと危機管理に について」 武井勲 (青山学院大教授)	
ミネソタ州Jesse Ventura知事歓迎 パーティー、「Friends of Minnesota」に参画、約220名出席		11・11・3(水)	T.G.I Friday's 渋谷神南店	
第13回	13・4・15(日)	学士会館	「エネルギーと環境」 白石振作 (東京大学名誉教授)	
第14回	15・7・5(土)	東海大学 校友会館	「第二の故郷ミネソタ(ミネソタで の学びから生まれた新しい経営)」 高瀬拓士 (ミネソタ州政府貿易局 駐日代表事務所代表)	

参考資料-2

参考資料-2				
ミネソタ通信				
号数	発行時期	編集責任者	投稿者(敬称略)	備考
創刊号	2・6・10	遠山紘司幹事	高藤昇(会長) 山下宏、秋田嘉徳、 遠山紘司	4ページ
Vol.2	1991・7・20	太田口和久幹事 和田一彦幹事	沖田哲也(会長) 佐野東隆、大塩知子 二宮芳継、和田一彦 森園典子	8ページ
Vol.3	1994・11・20	日本ミネソタ会	梅津祐良(会長) 中村正吉	2ページ
第4号	1997・8・1	遠山紘司副会長	梅津祐良(会長) 山下宏、田島重雄 石生義人	4ページ
第5号	200・5	山口健一役員 (ミネソタ通信担当)	佐野東隆(会長) 山下宏、嘉手川勇 伊奈幸明、深井浩史 村川武雄(梅津祐良顧問宛手紙)	8ページ
第6号	2002・3・15	山口健一役員 (ミネソタ通信担当)	佐野東隆(会長) 山下宏、沼形義彰 坂本仁、小幡みどり、山口健一	7ページ
第7号 (本号)	2004・6・30	山口健一役員 (ミネソタ通信担当)	佐野東隆(会長) 安田さおり、岩波はるみ 藤井賢三、山口健一	12ページ

参考資料-3

参考資料-3					
役員一覧 (敬称略)					
①1984・7・22当時 (議事録による)		②1986・1・18 (議事録)		③1991・7・20 (ミネソタ通信Vol.2による)	
会長	中村正吉	会長	高藤昇	会長	沖田哲也
副会長	高藤昇 (監査) 沼形義彰	副会長	沖田哲也 秋田嘉徳 沼形義彰 (監査)	副会長	梅津祐良 (涉外) 牧田真佐美 (会計)
会計 名簿	有賀勝 伊藤定祐 井尻晴久		佐野冥隆 (関西)		尾形朝子 (書記)
通信	遠山紘司 (国内通信、書記) 西田司 (ミネソタ通信)	会計 名簿	遠山紘司 伊藤定祐 井尻晴久	幹事	鈴木利大 (涉外) 前川晃子 (書記) 亀山美津子 (書記) 太田口和久 (ミネソタ通信) 和田一彦 (ミネソタ通信)
		通信	梅津祐良 窪田倭		総括アドバイザー 遠山紘司
		顧問	中村正吉		
④1994・11・20 (ミネソタ通信Vol.3)		⑤200・5 (ミネソタ通信第5号)			
会長	梅津祐良	会長	佐野冥隆		
副会長	尾形朝子 牧田真佐美 (会計)	副会長	伊藤定祐 役員(会計担当) 村松秋彦		
	前川晃子 遠山紘司		役員(ミネソタ通信担当) 山口健一		
顧問	中村正吉 高藤昇 田島重雄		役員(書記担当) 小幡みどり 中村旭 (2002・3・15より)		
		監査	沼形義彰		
		顧問	梅津祐良		